

教職に関する科目（平成30年度入学生用）

科目コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要		
70040	教職概論	2	30	1	前期	村瀬 桃子	○			
	教育原理	2	30	1	前期	村瀬 桃子	○			
	発達と学習	2	30	1	後期	清水 浩	○			
	学校教育の制度及び経営	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子	選択			
70211	国語科教育法	2	30	1	後期	馬場 重行	○	国語国文指定		
	英語科教育法	2							北山 長貴	英語英文指定
	社会科教育法	2								
70212	道德教育論	1	16	2	前期	棚村 正	○	栄養大との合同授業 (単位互換による)		
70212	特別活動論	1	16	2	前期	棚村 正	○			
	生徒指導・進路指導論	2	30	1	後期	棚村 正	○			
70231	教育相談論	2	30	2	後期	棚村 正	○			
70240	教職実践演習（中学校教諭）	2	30	2	後期	清水・村瀬 馬場・北山・吉田	○			
70310	中学校教育実習	4	120	2	集中	清水・村瀬	○			
70330	事前・事後指導（中学校教諭）	1	45	2	集中	清水・村瀬	○			

教職に関する科目（平成31年度入学生用）

科目コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要		
70010	教職概論	2	30	1	前期	村瀬 桃子	○			
70020	教育原理	2	30	1	前期	村瀬 桃子	○			
70030	発達と学習	1	16	1	後期	清水 浩	○			
70032	特別支援教育論	1	16	1	後期	清水 浩	○			
	教育の制度と教育課程	2	30	2	後期	村瀬 桃子	○			
70110	国語科教育法	2	30	1	後期	馬場 重行	○	国語国文指定		
70120	英語科教育法	2							北山 長貴	英語英文指定
70130	社会科教育法	2								
70221	道德教育論	1	16	2	前期	棚村 正	○	栄養大との合同授業 (単位互換による)		
	特別活動・総合的な学習の時間	2	30	2	前期	岩本 宏幸 安倍 啓司	○			
	教育方法論	1	16	2	前期	朝倉 充彦	○			
	生徒指導・進路指導論	2	30	1	後期	棚村 正	○			
	教育相談論	2	30	2	後期	棚村 正	○			
	教職実践演習（中学校教諭）	2	30	2	後期	清水・村瀬 馬場・北山・吉田	○			
	中学校教育実習	4	120	2	集中	清水・村瀬	○			
	事前・事後指導（中学校教諭）	1	45	2	集中	清水・村瀬	○			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	教職必修
担当教員			
村瀬 桃子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	教職に求められていることをつかむために、教職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等について知る。また、授業を通して自身の教職への適性を判断する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 全15回の授業の流れを説明する。</p> <p>第2回 教職観とその変遷(1)理想の教師像 理想の教師像について、受講者それぞれ考え、簡潔に書いてみる。</p> <p>第3回 教職観とその変遷(2)日本の伝統的な教師像 日本には、独特な教師像が歴史的につくられてきており、今日もその影響が色濃くみられる。どのような歴史的経緯で日本の教師像がつけられてきたのかを知る。</p> <p>第4回 教職観とその変遷(3)専門職としての教職 伝統的な教師像を残しつつ、現在では教職は専門職として見られている。この議論の背景を知る。</p> <p>第5回 生徒への指導～ロールプレイ～ 教育実習の際につまずくことの一つに、生徒との関わりがある。特に、教師として強く「指導」しなければならない場面で、どうするか。場合によっては、他の教職員や校外の専門家の連携をすることも視野に入れ、グループでロールプレイを考えてもらう。</p> <p>第6回 教師の役割(1)教師の法的役割 法的に見ると教師はどのような役割を持っているのかを知る。</p> <p>第7回 教師の役割(2)教師の仕事の特質 教師というのは、他の職業にはない特質をもっている。その特質を知り、それぞれが目指す教師像を深める。学校では多様な子どもたちと関わることから、教師は「チーム学校」の一員としての専門性、また学校内外の人たちとの連携も強く求められていることを知る。</p> <p>第8回 教員の任用とサービス(1)教職員の資格 教職員の資格について、法的な面から確認する。</p> <p>第9回 教員の任用とサービス(2)教員の身分と任用 教職員の身分と任用について、法的な面から確認する。</p> <p>第10回 教員の任用とサービス(3)教員のサービス 教職員のサービスについて、法的な面から確認する。</p> <p>第11回 教員の任用とサービス(4)身分保障と分限・懲戒 教員の身分保障と分限・懲戒について、法的な面から確認する。</p> <p>第12回 教員の任用とサービス(5)勤務条件 教員の勤務条件について、法的な面とともに現状（データ）を示すことで、問題を知る。</p> <p>第13回 朝の会・帰りの会(1) 教師になったら、様々な場面で生徒に指導する必要が出てくる。そこで、朝の会・帰りの会という設定で、生徒役の学生に向かって、中学生に届く話や指導の仕方を考える。</p> <p>第14回 朝の会・帰りの会(2) 朝の会・帰りの会をやる際には、生徒役の学生からコメントをもらい、フィードバックする。それによって伝え方を再確認する。</p> <p>第15回 教師の資質向上と研修 教員採用試験に合格し、教師になったら、勉強しなくて良いわけではない。教職に就いてからも学び続けるのが教職である。教師の資質向上のための研修制度について知る。</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育専門職（教育者）としての職務内容や身分、待遇等を知る。 2. 教育専門職（教育者）としての心構えをもつ。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布プリントを復習する。日頃から教育問題について、関心を持つようにする。
テキスト	テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。資料等は必要に応じて配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教育専門職の「専門性」とは何かを、それぞれ考えてほしい。また、毎回感想用紙を配り、質疑応答（コメント）も行う。「教師の卵」として授業に参加する意識を持つこと（自治・自制・自立の意識）。</p> <p>1年生で取得すべき教職の単位は、1年生のうちに取得すること。単位を1つでも落としたり、教育実習はできません。</p>
評価方法	ロールプレイ（20%）、スピーチ（30%）、授業の感想（20%）、レポート（30%）によって評価する。提出物の期限を守るのは当然。遅れた場合は減点となる。
参考文献	参考文献については授業中にその都度通知する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	教職必修
担当教員			
村瀬 桃子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	教育の基本的概念や理念、思想について、教育や学校の歴史をたどっていくことで理解する。また、それらがどのように現れてきたか、教育や学校の営みの変遷を理解する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 講義のスタイルと全15回の授業の流れ、内容の概略を説明する。	
	第2回	「人間とは何か」という問いから考える ポルトマン『人間はどこまで動物か』を参考に、人間の特徴と教育について考える。	
	第3回	子育てと教育 近代学校が普及する前、庶民には学校は縁のないものだった。庶民は、どのような社会で育てられ、大人になっていったのかを知る。	
	第4回	学校の歴史—古代— 学校は古代から存在した。しかし、すべての子どもが通うところではなかった。どのような立場の者が学校を必要としていたかを知る。またソクラテスの教育思想にも触れる。	
	第5回	学校の歴史—中世～近世— 中世～近世にかけても、基本的に庶民にとって学校は遠い存在であった。それが変化し、すべての子どもに必要なになっていくのであるが、そのきっかけとなる社会的ないくつかの出来事について知る。また、当時の教育思想（コメニウス等）についてもふれる。	
	第6回	学校の歴史—近代公教育— 近代になり、子どもに教育が必要な社会になっていくが、それはどのような社会的な変化があったからなのか。権利としての教育と、現実社会の要請としての教育の二面性について知る。また、ルソーやペスタロッチ等の教育思想にもふれる。	
	第7回	日本の教育—明治・大正— 日本の教育の近代化は明治から始まる。幕末からの変化、当時の日本は教育に何を求めていたかについて知る。さらに、欧米諸国に追いつきはじめてころの日本の教育（大正自由教育・新教育）について知る。	
	第8回	日本の教育—昭和初期— 大正自由教育・新教育が批判された後、不景気であった昭和初期に農村等で起こった教育運動（生活綴方運動等）と、戦争に向かう前の日本の教育について知る。	
	第9回	日本の教育—戦争と教育— 戦争中の日本の教育について知り、教育が戦争遂行のための手段と化していった経緯について知り、教育と政治・経済のあり方について考える。	
	第10回	日本の教育—戦後教育制度改革— 戦争遂行の手段と化してしまった教育を、どのように民主化して行こうとしたかについて、知る。	
	第11回	戦後日本の教育課程と学校経営 憲法・教育基本法・教育委員会法等の成立や、新制中学校・新制高等学校の理念、当時の教育実践を通して、戦後日本の教育課程や学校経営について知る。	
	第12回	1950年代の日本の教育 終戦直後の民主化から方針転換していく様子を、当時の国際情勢をおさえつつ知る。	
	第13回	高度経済成長期の日本の教育問題 1960年代の高度経済成長期に起こった教育問題について知る。	
	第14回	1970～80年代の日本における子どもの問題と学校 低成長時代の社会の変化と子どもの生活の変化をおさえながら、新たな教育問題（校内暴力・いじめ・不登校、等）の背景をおさえる。	
	第15回	現代の子ども・学校の問題 1990年代以降の様々な子どもの問題について、社会背景をおさえつつ、知る。	
授業概要	1. 人間に学びや教育が必要な理由、ならびにすべての子どもが学校に通う理由について知る。 2. 教育制度や教育課程等について、歴史的な背景をふまえた理解ができるようにする。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	配布プリントを復習する。日頃から教育問題について、関心を持つようにする。		
テキスト	テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	簡潔でわかりやすい講義を目指す。また、毎回感想用紙を配り、質疑応答（コメント）も行う。「おまけ」は内容に配慮する。教育実習に行く立場の人が、授業態度等で注意されないようにすること。		
評価方法	期末試験（筆記試験）：約70%、感想：約30%とする。 筆記試験も出席も、3分の2以上なければ当然「不可」である。		
参考文献	参考文献については、授業中に必要に応じ紹介する。		

講義科目名称：発達と学習（70030）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	教職必修
担当教員			
清水 浩			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	人間の「発達と学習」に関する諸問題を取り上げ、基本的な考え方を理解する。		
授業計画	第1回	幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的・内的要因の相互作用と様々な学習の形態や概念の理解	
	第2回	発達の概念と発達理解の意義及び乳幼児期から青年期における発達の具体的内容	
	第3回	乳幼児期から青年期における運動発達と具体的な内容及び指導方法	
	第4回	乳幼児期から青年期における言語発達と具体的な内容及び指導方法	
	第5回	乳幼児期から青年期における認知発達と具体的な内容及び指導方法	
	第6回	乳幼児期から青年期における社会性の発達と具体的な内容及び指導方法	
	第7回	発達に関する代表的理論の基礎とその理解及び学習の動機付け・集団づくり・学習評価の在り方に関する理解	
	第8回	学習に関する代表的理論とその具体的な指導法	
授業概要	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。		
実務経験及び授業の内容	特別支援学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし教職実践演習（中学）の授業を行う。		
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。		
テキスト	適宜資料を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義内容の理解と定着を図るため、ほぼ毎回コメントを求めますので、積極的に取り組むようにしてください。また、学生の興味を引くように身近な事例を多く取り入れながら講義を進めていきます。		
評価方法	レポート課題（70%）、コメントペーパー（30%） 講義内容の理解と定着を図るため、ほぼ毎回コメントを求めますので、積極的に取り組むようにしてください。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：特別支援教育論（70032）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	教職必修
担当教員			
清水 浩			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	特別支援教育の意義と概要や、一人ひとりの自立に向けた教育の重要性について理解する。また、学校等における特別支援教育システムと教師の役割について理解する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、特別支援教育の理念と対象 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難に関する基礎的知識	
	第2回	特別支援教育の法的な整備と動向	
	第3回	障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難に関する基礎的知識：学習障害	
	第4回	障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難に関する基礎的知識：注意欠如多動症	
	第5回	障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難に関する基礎的知識：自閉スペクトラム症	
	第6回	障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難に関する基礎的知識	
	第7回	学校における特別支援教育体制	
	第8回	個別移行支援計画と就労支援及び社会参加、まとめ	
授業概要	「特殊教育」から「特別支援教育」に転換された障害児教育の理念や制度と現状を学ぶとともに、子ども一人ひとりの教育的ニーズや今日的な課題に対応できる特別支援教育の在り方について理解を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	山形県内における特別支援教育の支援体制について調べる。		
テキスト	講義資料を配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）			
評価方法	定期試験 40% レポート・課題 40% 受講態度20%		
参考文献	「特別支援学校学習指導要領」「特別支援学校学習指導要領解説」文部科学省 ・ 「特別支援教育の理論と実践 I・II」（2012）竹田契一、上野一彦、花熊 暁、特別支援教育士資格認定協会		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	教職選択
担当教員			
村瀬 桃子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 事例を通して「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」について知る。 2. 教育に関する法や行政の現状を客観的・批判的に観る眼を養う。
授業計画	<p>第1回 特別支援学校のイメージをつかむ（映画『学校Ⅱ』前半） 前半では、特別支援学校で学ぶ生徒たちについてイメージをつかむ。</p> <p>第2回 特別支援学校のイメージをつかむ（映画『学校Ⅱ』後半） 後半では、特別支援学校で学ぶ生徒たちの様々な悩みについて知る。</p> <p>第3回 ある養護学校（特別支援学校）の子どもたちの困難さ 教材を没収された養護学校（特別支援学校）の子どもは、どのような困難を抱えていたかについて、実践記録や手記などを手がかりにして知る。</p> <p>第4回 ある養護学校の実践 実際の養護学校での実践について、実践記録などを参考に、特別支援学校の生徒への支援の仕方を知る。</p> <p>第5回 ある養護学校で起こったこととその背景 ある養護学校で起こった教材没収事件の社会的背景について説明する。</p> <p>第6回 憲法と1947年教育基本法及び「改正」教育基本法 日本国憲法と1947年制定教育基本法、2006年制定教育基本法の違いを知る。</p> <p>第7回 教育委員会の役割 教育委員会とはどのような場で、どのような仕事をしているかを知る。</p> <p>第8回 学校及び学級経営 学校を経営するとは何か、組織全体で取り組むべきことを知る。また、学級を経営するとは何か。クラス担任になったとしたら、どのようなクラスにしたいか、グループワークをしながら考える。</p> <p>第9回 もし、担任だったら（ロールプレイ） 担当のクラスで、ある問題が起こった時、どのように対処するか。学年主任や管理職と、どのように連携していくかについて、グループでのロールプレイを通して考える。</p> <p>第10回 教職員、親・子どもに関する法規 教職員、特に親や子どもに関する法規について、概観する。</p> <p>第11回 グループワーク～教科外活動の指導案をつくる(1)～ 自分の専門の教科以外の教育活動（道徳・総合的な学習の時間・学活等）の指導案をグループで作る。（1）では、発達段階や行事なども考えて、年間計画から考える。 学校安全についてもふれる。</p> <p>第12回 グループワーク～教科外活動の指導案をつくる(2)～ （1）をふまえ、具体的な1時間の指導案（道徳・総合的な学習の時間・学活等）をグループで考える。</p> <p>第13回 模擬授業(1) グループで考えた指導案を、実際に授業として行う。授業後は質疑を行う。感想等も書き、授業したグループにフィードバックする。</p> <p>第14回 模擬授業(2) グループで考えた指導案を、実際に授業として行う。授業後は質疑を行う。感想等も書き、授業したグループにフィードバックする。</p> <p>第15回 模擬授業(3) グループで考えた指導案を、実際に授業として行う。授業後は質疑を行う。感想等も書き、授業したグループにフィードバックする。</p>
授業概要	講義の前半に取り上げる具体的な事例は、ある養護(特別支援)学校の性教育教材没収事件(教育内容への教育行政の介入)である。また、後半はロールプレイやグループワーク、模擬授業も行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布プリントを復習する。日頃から教育問題について、関心を持つようにする。
テキスト	テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。参考文献については、授業中に必要に応じ紹介する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	できる限り教育実習を視野に入れた活動をする。知識を問うのではなく、授業での積極的な発言や参加を期待する。
評価方法	ロールプレイ(20%)、グループワーク(20%)、模擬授業(20%)、積極性(授業中の発言やグループ活動でのリーダーシップ等、20%)、感想(20%)。
参考文献	
備考	

講義科目名称：国語科教育法（70110）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	教職選択必修
担当教員			
馬場 重行			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語科についての基本的な知識を学ぶ ・教育実習における実践的な能力を身に付ける
授業計画	<p>第1回 教科内容概説</p> <p>第2回 「国語科」の歴史について</p> <p>第3回 「学習指導要領」を中心とした教育関連法規概説</p> <p>第4回 学習指導案作成についての説明</p> <p>第5回 学習指導案作成①（「字のない葉書」）</p> <p>第6回 学習指導案作成②（「ちょっと立ち止まって」）</p> <p>第7回 学習指導案作成③（「オツベルと象」）</p> <p>第8回 学習指導案作成④（「大人になれなかった弟たちに・・・」）</p> <p>第9回 学習指導案作成⑤（「俳句の可能性」）</p> <p>第10回 情報機器教材及び教材の活用について概説</p> <p>第11回 模擬教壇実習①（情報機器教材及び教材の活用を含む）</p> <p>第12回 模擬教壇実習②（情報機器教材及び教材の活用を含む）</p> <p>第13回 模擬教壇実習③（情報機器教材及び教材の活用を含む）</p> <p>第14回 模擬教壇実習④（情報機器教材及び教材の活用を含む）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教科についての説明 ・実践力養成のための模擬授業の実施 ・学習内容向上のための相互批評の実践
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	教育に関するニュースはこまめにチェックし、授業で紹介する文献をできるだけ読んで下さい。
テキスト	・「教育実習生のための学習指導案作成教本「国語科」」（蒼丘書林）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この講義を受講する人は、教職に就くことを前提としています。その意志をいいかげんなものでなく、真に意味あるものとしてできるよう意欲的に受講してください。教育実習は、米短の看板を背負って現場に立つようなものです。それは、あなた方にとっても、子どもたちにとっても、かけがえのない一度だけの「出会い」でもあります。より実りの多い、大切な現場体験を持てるよう努めて欲しいと願います。今年度も引き続き、指導案の作成を複数回求めます。昨年までよりもっと添削に力をいれ、より良い形になるよう努めますので、意欲的に提出してください。
評価方法	以下を総合して評価する <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の添削 ・相互評価表の添削 ・小テスト（4～5回） ・筆記試験
参考文献	中学校学習指導要領（最新版）
備考	

講義科目名称：英語科教育法（70120）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	教職選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	中学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。		
授業計画	第1回	中学校の学習指導要領について	
	第2回	中学校の教科用図書について（『New Horizon 1~3』）	
	第3回	「3つの資質・能力」と年間、単元、各授業時間の指導計画について	
	第4回	小学校の外国語活動について（『We Can!! 1, 2』『Let's Try! 1, 2』）	
	第5回	聞くこと、読むことの指導方法	
	第6回	話すこと（やり取り・発表）、書くことの指導方法	
	第7回	英語の音声的な特徴に関する指導方法	
	第8回	文字、語彙、表現、文法に関する指導方法	
	第9回	教材研究・ICT等の活用について	
	第10回	生徒の特性や習熟度に応じた指導（インクルーシブ教育）	
	第11回	学習指導案の作成について（学習到達目標、学習状況の評価を含む）	
	第12回	言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について	
	第13回	第二言語習得に関する知識とその活用について	
	第14回	授業観察（米沢第一中学校にて）（TT、インタラクションについて）	
	第15回	模擬授業（異文化理解、複数領域を統合した言語活動をふくむ）	
授業概要	授業では、1. カリキュラム/シラバス、2. 生徒の資質・能力を高める指導、3. 授業づくり、4. 学習評価、5. 第二言語習得について理解し、身に付け、授業指導に生かすことができるようにする。		
実務経験及び授業の内容	県立高等学校での教諭の実務経験があり、この経験を生かし英語科教育法の授業を行う。		
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。		
テキスト	『新編 英語科教育法入門』土屋澄男他編著（研究社）2500円（本体価格）、『New Horizon 1-3』（東京書籍）990円（本体価格）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案を作成し模擬授業を全員に行ってもらいます。 ・英検2級または同等の英語能力を有する学生。 		
評価方法	レポート（20%）、模擬授業（50%）、指導案（30%）		
参考文献	「中学校学習指導要領」（平成29年告示）		
備考			

講義科目名称：社会科教育法（70130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	教職選択必修
担当教員			
吉田 欽			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	中学校における社会科教育のあり方、さらに学習指導の方法について探っていく。学校教育の場で、常に基本となるのは『学習指導要領』であり、まずその理解が求められる。その上で、実践的な授業計画案・指導案の作成を試みる。また、模擬授業を行うことで、実践力を付ける。		
授業計画	第1回	教員になる心構えと社会科という科目について	
	第2回	『学習指導要領』と歴史分野の学習指導案の作成と授業の準備・方法（情報機器及び教材の活用）	
	第3回	模擬授業①「平氏政権について」	
	第4回	模擬授業②「鎌倉幕府の成立について」	
	第5回	模擬授業③「蒙古襲来について」	
	第6回	『学習指導要領』と地理分野の学習指導案の作成と授業の準備・方法（情報機器及び教材の活用）	
	第7回	模擬授業①「自然と地形」	
	第8回	模擬授業②「世界の国々」	
	第9回	模擬授業③「日本の自然と地理」	
	第10回	『学習指導要領』と公民分野の学習指導案の作成と授業の準備・方法（情報機器及び教材の活用）	
	第11回	模擬授業①「人権と日本国憲法」	
	第12回	模擬授業②「人権と共生社会のあり方」	
	第13回	模擬授業③「国の政治の仕組み」	
	第14回	模擬授業のふりかえり	
	第15回	実習に向けた課題と対応	
授業概要	社会科の特徴をつかむとともに、実際に受講生に模擬授業をしてもらう。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	出された課題などを事前に準備すること。		
テキスト	プリントを配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教師の卵として意欲を示してほしい。指導案作りや教材研究、さらに模擬授業を行うので、積極的に行動することを期待している。講義を聴くだけでなく主体的に取り組んで欲しい。		
評価方法	積極的な授業への参加度（30%）、提出物（30%）、模擬授業（30%）、レポート（10%）		
参考文献	「中学校学習指導要領(最新版)」		
備考			

講義科目名称： 道徳教育論（70211）

授業コード：

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	教職必修
担当教員			
棚村 正			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	道徳教育や道徳科の考え方や進め方の基本を身に付けることができるようにする。具体的には、 1) 学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の意義と原理等を理解する。 2) 道徳教育の要となる道徳科の目標、内容、指導計画、指導方法について理解する。 3) 道徳科の教材研究と指導案作成、模擬授業を通して実践力を身に付ける。
授業計画	第1回 道徳教育の意義と原理 第2回 道徳教育の目標と内容 第3回 道徳教育の方法と指導計画 第4回 道徳科の指導の実際①—多様な指導方法— 第5回 道徳科の指導の実際②—教材の特徴を生かした授業設計— 第6回 道徳科の指導案作成①—模擬授業へ向けての教材研究— 第7回 道徳科の指導案作成②—模擬授業へ向けての指導案作成— 第8回 道徳科の模擬授業とふりかえり
授業概要	次の点について、実践例に学びながら、講義とグループワークを組み合わせることで活動的に学ぶことができるようにする。①道徳教育の意義や原理、②道徳教育の目標や内容、指導計画、指導方法、③道徳科の教材研究や指導案作成、模擬授業。
実務経験及び授業の内容	現場で教員として38年勤務した経験を活かして授業を行う。
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞、他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的、積極的に考えること。
テキスト	中学校学習指導要領解説 道徳編
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	2019年から教科としてスタートするにあたって、新指導要領の目標や内容等をしっかり理解し、指導の実際についてより具体的かつ実践的な考え方を学んでほしい。
評価方法	レポート30% 提出物（課題・感想）40% 授業への参加度（積極性）30%
参考文献	
備考	

講義科目名称：特別活動論（70212）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	教職必修
担当教員			
棚村 正			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	特別活動の考え方や進め方の基本を身に付けることができるようにする。到達目標は次の通りである。 1) 特別活動の目標、意義、役割、及び内容を理解する。 2) 生徒会活動、学校行事、クラブ活動、及び学級活動の内容と指導のあり方を理解する。 3) 学校と家庭・地域との連携のあり方を理解する。
授業計画	第1回 特別活動の目標と意義 第2回 特別活動の役割と内容 第3回 生徒会活動の内容とその指導 第4回 学校行事、クラブ活動の内容とその指導 第5回 学級活動の内容とその指導 第6回 集団活動の意義とその指導 第7回 学校と家庭・地域との連携 第8回 まとめ
授業概要	次の点について、実践例に学びながら、講義とグループワークを組み合わせることで活動的に学ぶことができるようにする。①特別活動の目標、意義、役割、及び内容、②生徒会活動、学校行事、クラブ活動、及び学級活動の内容と指導、③集団活動の意義と指導、④学校と家庭・地域との連携
実務経験及び授業の内容	現場で教員として38年勤務した経験を活かして授業を行う。
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞、他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。
テキスト	中学校学習指導要領解説 特別活動編
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	先行実施が始まる新指導要領についての理解を深め、自身の体験・経験を指導者の視点から見直し、より豊かな学校生活を構築する考え方を学んでほしい。
評価方法	期末試験50% 解題レポート30% 授業への参加度（積極性）20%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	教職必修
担当教員			
棚村 正			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	生徒指導及び進路指導の考え方と進め方の基本を身に付けることができるようにする。具体的には、1) 生徒指導の意義と理論を理解する。2) 生徒指導の機能と進め方を理解する。3) 児童生徒が抱える様々な生徒指導上の課題への対応の在り方を理解する。4) 進路指導・キャリア教育の意義と理論を理解する。5) 進路指導・キャリア教育のガイダンス機能やカウンセリング機能を理解する。
授業計画	<p>第1回 生徒指導の意義</p> <p>第2回 生徒指導の理論</p> <p>第3回 生徒指導の方法と計画</p> <p>第4回 生徒理解（実態・方法・展開・連携）</p> <p>第5回 生徒指導の実際①—生徒全体への指導—</p> <p>第6回 生徒指導の実際②—個々の生徒への指導—</p> <p>第7回 生徒指導の実際③—今日的な課題と連携—</p> <p>第8回 生徒指導と学級づくり</p> <p>第9回 進路指導・キャリア教育の意義</p> <p>第10回 進路指導・キャリア教育の理論</p> <p>第11回 進路指導・キャリア教育の方法と計画</p> <p>第12回 進路指導・キャリア教育の実際①—生徒全体への指導—</p> <p>第13回 進路指導・キャリア教育の実際②—個々の生徒への指導—</p> <p>第14回 進路指導・キャリア教育の実際③—キャリアカウンセリング—</p> <p>第15回 進路指導・キャリア教育のまとめ</p>
授業概要	次の点について、講義とグループワークを組み合わせて、事例を通して活動的に学ぶことができるようにする。①生徒指導の意義と理論、②生徒指導の機能と進め方、③児童生徒が抱える様々な生徒指導上の課題への対応、④進路指導・キャリア教育の意義と理論、⑤進路指導・キャリア教育のガイダンス機能やカウンセリング機能。
実務経験及び授業の内容	現場で教員として38年勤務した経験を活かして授業を行う。
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞、他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。
テキスト	文部科学省「生徒指導提要」
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	今、学校は様々な生徒指導上の課題を抱えて対応に努力しています。その背景や生徒の発達の課題を踏まえ、生徒指導のあり方を考えます。同時に、家庭における子育てについても考えます。「生徒指導のあり方」は子ども達の「生き方指導」につながります。また、「教師のあり方」にもつながります。これらのことについても、学校現場の実情に即して触れていきます。自立的な「生き方」につながる「進路指導」について考えます。
評価方法	期末テスト60% 課題レポート20% 授業への参加度20%
参考文献	
備考	

講義科目名称：教育相談論（70231）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	教職必修
担当教員			
棚村 正			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学校における教育相談の考え方と進め方の基本を身に付けることができるようにする。具体的には、1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。2) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。3) 教育相談を進める際に必要な心理学やカウンセリングに関する基礎的な理論や概念を理解している。4) 不適応行動等に対する、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。を到達目標とする。
授業計画	<p>第1回 学校における教育相談①－意義や課題－</p> <p>第2回 学校における教育相談②－児童生徒の実態－</p> <p>第3回 教育相談の組織と運営</p> <p>第4回 教育相談の進め方①－生徒理解の基本－</p> <p>第5回 教育相談の進め方②－生徒理解の手立て－</p> <p>第6回 教育相談の進め方③－学級担任編－</p> <p>第7回 不適応行動等の理解と対応①－不登校－</p> <p>第8回 不適応行動等の理解と対応②－いじめ－</p> <p>第9回 不適応行動等の理解と対応③－反社会的・非社会的行動－</p> <p>第10回 相談活動とカウンセリング①－基本的な姿勢－</p> <p>第11回 相談活動とカウンセリング②－カウンセリングマインド－</p> <p>第12回 相談活動とカウンセリング③－個別指導－</p> <p>第13回 教育相談の実際①－校内外との連携－</p> <p>第14回 教育相談の実際②－様々な心理支援－</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	次の点について、講義とグループワークを組み合わせ、より活動的に学ぶことができるようにする。①学校における教育相談の意義と課題、②教育相談の組織と運営、③生徒理解を踏まえた教育相談の進め方、④不適応行動等の理解と対応、⑤相談活動とカウンセリング、⑥組織的な教育相談の実際。
実務経験及び授業の内容	現場で教員として38年勤務した経験を活かして授業を行う。
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞、他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。
テキスト	文部科学省「生徒指導提要」
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	子ども達の心と行動が変化し、様々な問題を抱えて悩んでいます。それが様々な反社会的行動や非社会的行動などの形になって現れています。そのような子ども達の心理をどう理解し、どう指導すべきなのか、できるだけ実態に即して考察します。 人とのかかわり方がうまくできない子ども達が増え、そこから様々な問題が発生しています。「互いを認め合いながら豊かにかかわって生きる力」を育む相談活動の実際についても触れます。
評価方法	期末試験60%、課題レポート20%、講義への参加度20%
参考文献	適宜資料として配布する。
備考	※栄養大との単位互換科目である。

講義科目名称：教職実践演習(中学) (70240)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	教職必修
担当教員			
清水・村瀬・馬場・北山・吉田			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 教職課程で履修した講義及び教育実習で学んだことを統括し、教員に求められる資質能力を確認する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(教職実践演習の説明及び教育課程履修カルテの作成)</p> <p>第2回 教育実習の振り返り (小グループで検討)</p> <p>第3回 模擬授業と授業改善(1) (指導案の作成)</p> <p>第4回 模擬授業と授業改善(2) (模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成)</p> <p>第5回 模擬授業と授業改善(3) (模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成)</p> <p>第6回 模擬授業と授業改善(4) (模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成)</p> <p>第7回 模擬授業と授業改善(5) (模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成)</p> <p>第8回 模擬授業と授業改善(6) (模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成)</p> <p>第9回 模擬授業と授業改善(7) (模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成)</p> <p>第10回 現職教員の講話 (学校現場が求める教員像)</p> <p>第11回 栄養教諭の講話 (学校現場が求める栄養教諭像)</p> <p>第12回 養護教諭の講話 (児童の健やかな発達)</p> <p>第13回 教育問題を考える(1) (いじめ、不登校等) (小グループでの討議等)</p> <p>第14回 教育問題を考える(2) (SNSの活用等) (小グループでの討議等)</p> <p>第15回 まとめ (教職課程で学んだことを総括)</p>
授業概要	1. 模擬授業や小グループでの討議を通じて、教員に求められる資質能力について考える。
実務経験及び授業の内容	特別支援学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし教職実践演習(中学)の授業を行う。
時間外学習	定期的にレポートを課すので、期日までに取り組み提出すること。
テキスト	各学習指導要領及び解説
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	グループ討議やロールプレイなどがあるので、積極的な姿勢で臨んで欲しい。グループ分けやロールプレイでの役割分担などが強制的に割り振られることがあるが、時間等の制約もあるので了承していただきたい。なお、やむをえず欠席する場合は欠席届を担当教員に提出すること。授業で伝えたいことや修得して欲しいことを明確に伝えていくので、理解度について確認を行うこと。
評価方法	授業への参加度 (50%)、発表内容、レポート、講話振り返り等 (50%)
参考文献	
備考	

講義科目名称： 中学校教育実習（70310）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2	4	教職必修
担当教員			
清水・村瀬			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	1. 中学校教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、教育者としての使命感や倫理観を培う。
授業計画	第1回 教育実習オリエンテーション 第2回 中学校教育の観察・参加・実習 第3回 実習レポート、実習結果の整理と反省 第4回 事後指導（報告会）
授業概要	1. 中学校の教育活動に、教師としての立場で実際に参加することによって、教科及び教科外教育の意義と内容を体得する。
実務経験及び授業の内容	特別支援学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし教職実践演習（中学）の授業を行う。
時間外学習	定期的にレポートを課すので、期日までに取り組み提出すること。
テキスト	「教育実習の手引き」（購入） 「教育実習ノート」（配布）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習オリエンテーションをはじめとして教職関係について、掲示板で連絡します。日頃からチェックするようにしてください。 ・教育実習オリエンテーションには、必ず出席すること。 ・教育実習に行く前に、教科書を取り寄せ、教材研究をしっかりとっておいてください。また、実習では、担当学級の生徒の名前を早く覚え、明るく、積極的に話かけるように心がけてください。 ・教員に必要なルールやマナーを身に付けること。 ・授業の中で伝えたいことや修得して欲しいことを明確に伝えていきます。
評価方法	実習中学校の評価（50%）、実習ノート及び実習レポートの評価（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：事前・事後指導(中学) (70330)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2	1	教職必修
担当教員			
清水・村瀬			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 中学校教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、教育者としての使命感や倫理観を培う。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 日程確認・教育実習の目的と意義</p> <p>第3回 教育実習の心得</p> <p>第4回 教育実習ノートの作成方法</p> <p>第5回 生徒の理解</p> <p>第6回 児童・生徒とのコミュニケーション</p> <p>第7回 道德教育の方法</p> <p>第8回 教育実習のポイント</p> <p>第9回 中学校教育について</p> <p>第10回 生徒指導について</p> <p>第11回 各教科の学習指導について</p> <p>第12回 各教科学習指導案について</p> <p>第13回 介護等体験の説明</p> <p>第14回 教育実習報告会</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	1. 中学校の教育活動に、教師としての立場で実際に参加することによって、教科及び教科外教育の意義と内容を体得する。
実務経験及び授業の内容	特別支援学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし教職実践演習（中学）の授業を行う。
時間外学習	定期的にレポートを課すので、期日までに取り組み提出すること。
テキスト	「教育実習の手引き」（購入） 「教育実習ノート」（配布）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習オリエンテーションをはじめとして教職関係について、掲示板で連絡します。日頃からチェックするようにしてください。 ・教育実習オリエンテーションには、必ず出席すること。 ・教育実習に行く前に、教科書を取り寄せ、教材研究をしっかりとっておいてください。 ・また、実習では、担当学級の生徒の名前を早く覚え、明るく、積極的に話しかけるように心がけてください。 ・教員に必要なルールやマナーを身に付けること。 ・授業の中で伝えたいことや修得して欲しいことを明確に伝えていきます。
評価方法	実習中学校の評価（50%）、実習ノート及び実習レポートの評価（50%）
参考文献	
備考	